

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
小児がん拠点病院・連携病院の QI（Quality Indicators）を評価指標としてがん対策
推進基本計画の進捗管理を行う小児がん医療体制整備のための研究
分担研究報告書

「東北地区における指標開発のための分担研究遂行」

研究分担者 笹原洋二

東北大学大学院医学系研究科発生・発達医学講座小児病態学分野・准教授

研究要旨

東北大学病院は東北ブロックにおける唯一の小児がん拠点病院として、東北ブロックにおける小児がん医療体制と相談支援体制の構築と連携強化を継続して行っている。

本研究分担では、QI(Quality Indicator)策定についての議論に参加し、東北ブロックにおける小児がん拠点病院および小児がん連携病院 8 施設の QI の評価を推進し、東北大学病院における具体的な QI 評価と小児がん連携病院における QI のとりまとめを行った。これらの結果をもとに、東北ブロック内における小児がん医療提供体制と相談支援体制のあり方について検討した。

A. 研究目的

東北大学病院は東北ブロックにおいて唯一の小児がん拠点病院である。

本研究分担では、研究班における QI(Quality Indicator)策定についての議論に参加し、東北ブロックにおける小児がん拠点病院および小児がん連携病院 8 施設において QI の評価を推進することと、これらの結果をもとに、東北ブロック内における小児がん医療提供体制と相談支援体制のあり方について検討することを目的とした。

B. 研究方法

1. 研究班全体における QI 策定の議論への

参画

東北ブロック内の小児がん診療の実情を踏まえ、班会議における QI 策定についての議論に参画した。

2. 東北ブロックにおける小児がん拠点病院での QI 評価

東北大学病院における QI による評価を行った。

3. 東北ブロックにおける小児がん連携病院での QI 評価

東北ブロックにおける小児がん連携病院 8 施設に QI 評価依頼を行い、そのとりまとめを行った。

(倫理面への配慮)

小児がん患者の個人情報管理について

は十分に配慮した QI 評価内容であり、各施設における配慮を依頼した。

C. 研究結果

1. 研究班全体における QI 策定の議論への参画

研究班会議での QI 策定原案をもとに、班会議では東北ブロックとしての意見を述べた。

2. 東北ブロックにおける小児がん拠点病院での QI 評価

小児がん拠点病院を対象として策定された項目に従い、診療録管理士の協力のもと、各項目について、小児がん患者の診療録を基盤として QI による評価を行った。その結果、病理診断までの期間が長い傾向にあることが判明し、その要因としては病理医不足が最も考えられた。病院人事体制の要因があり、その解決については小児がん診療部門のみでは解決できない要因であることが挙げられた。

3. 東北ブロックにおける小児がん連携病院での QI 評価

東北ブロックにおける小児がん連携病院 8 施設の全施設より協力の同意を得ることができた。小児がん連携病院でのスタッフの負担軽減および一定の評価を得るための具体的な評価項目の策定の議論に参加した。小児がん連携病院を対象として策定された項目に従い、診療録管理士の協力のもと、各項目について、小児がん患者の診療録を基盤として QI による評価依頼を行った。各施設からの報告を収集し、そのとりまとめを行った。

D. 考察

研究班全体の QI 作成について議論に参加し、小児がん診療体制の改善における項目について整理することができた。

QI 評価については、診療録管理士の協力が不可欠であり、当院では全面的な協力を得ることができた。東北大学病院が他の小児がん拠点病院と比較して改善すべき点として、病理診断までの期間の長さが挙げられた。この件については、病院人事体制の要因が挙げられた。

小児がん連携病院ではスタッフの負担軽減および一定の評価を得るための具体的な評価項目の策定が重要であり、今回の結果を踏まえて小児がん連携病院の小児がん診療の質の向上のためにフィードバックすることができた。

E. 結論

研究班における QI 策定についての議論に参加し、東北ブロックにおける小児がん拠点病院および小児がん連携病院 8 施設の QI の評価を推進し、東北大学病院における具体的な QI 評価を行った。

これらの結果をもとに、東北ブロック内における小児がん医療提供体制のあり方の指標としてフィードバックし、小児がん診療の質向上のために活用することができた。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Okada H, Irie W, Sugahara A, Nagoya Y, Saito M, Sasahara Y,

- Yoshimoto Y, Iwasaki F, Inoue M, Sato M, Ozawa M, Kusuki S, Kamizono J, Ishida Y, Suzuki R, Yamaguchi R, Shiwaku H. Factors associated with the employment status of mothers with childhood cancer survivors: a cross-sectional study. *Support Care Cancer*, 31:168, 2023.
- 2) Sai M, Moriya K, Kaino A, Suzuki T, Katayama S, Aoki H, Sasahara Y. Stage M infantile neuroblastoma with involvement of falx cerebri: case report and literature review. *J Pediatr Hematol Oncol*, 45: 220-222, 2023.
- 3) Sai M, Niizuma H, Yagi K, Nakano T, Katayama S, Himori N, Irie M, Sasahara Y. Comprehensive genomic profiling suggested multifocal development of retinoblastoma in a single eye. *Pediatr Blood Cancer*, 70: e30031, 2023.
- 4) Irie M, Niihira T, Nakano T, Suzuki T, Katayama S, Moriya K, Niizuma H, Suzuki N, Saitoh-Nanjyo Y, Onuma M, Rikiishi T, Sato A, Hangai M, Hiwatari M, Ikeda J, Tanoshima R, Shiba N, Yuza Y, Yamamoto N, Hashii Y, Takita J, Maeda M, Aoki Y, Imaizumi M, Sasahara Y. Reduced-intensity conditioning is effective for allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in infants with MECOM-associated syndrome. *Int J Hematol*, 117:598-606, 2023.
- 5) Kaino A, Niizuma H, Katayama S, Irie M, Nakano T, Saito T, Kato S, Suehara Y, Sasahara Y, Kikuchi A. Two-year crizotinib monotherapy induced durable complete response of inflammatory myofibroblastic tumor with ALK rearrangement. *Pediatr Blood Cancer*, 70:e30330, 2023.
- 6) Maezawa T, Suzuki N, Takeuchi H, Nishioka M, Manabe A, Koga Y, Kawaguchi H, Sasahara Y, Tachibana M, Iwamoto S, Horie A, Hiramatsu H, Kato M, Harada M, Yuza Y, Ikeda T, Matsumoto K. Challenges to widespread use of fertility preservation facilities for pediatric cancer patients in Japan. *J Adolesc Young Adult Oncol*, 13(1):197-202, 2024.

2. 学会発表

- 1) 東北エリア小児 NF1 Web セミナー
Short lecture 神経線維腫症 I 型の
診断・治療と現在の課題
笹原洋二
2023 年 11 月 20 日
WEB, 仙台市

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし